

骨折予防と一体的実施

2023/05/30

株式会社キャンサーズキャン
代表取締役社長 福吉 潤

要介護要因の第3位は「転倒・骨折」

介護が必要になった主な要因の構成割合
(要介護者)

順位	疾患名	割合(%)
1	認知症	24.3
2	脳血管疾患(脳卒中)	19.2
3	転倒・骨折	12.0

出典：厚生労働省「2019年国民生活基礎調査の概況」

大腿骨骨折した年は、その前の年より

医療費が

約308万円増加



約123万円/年

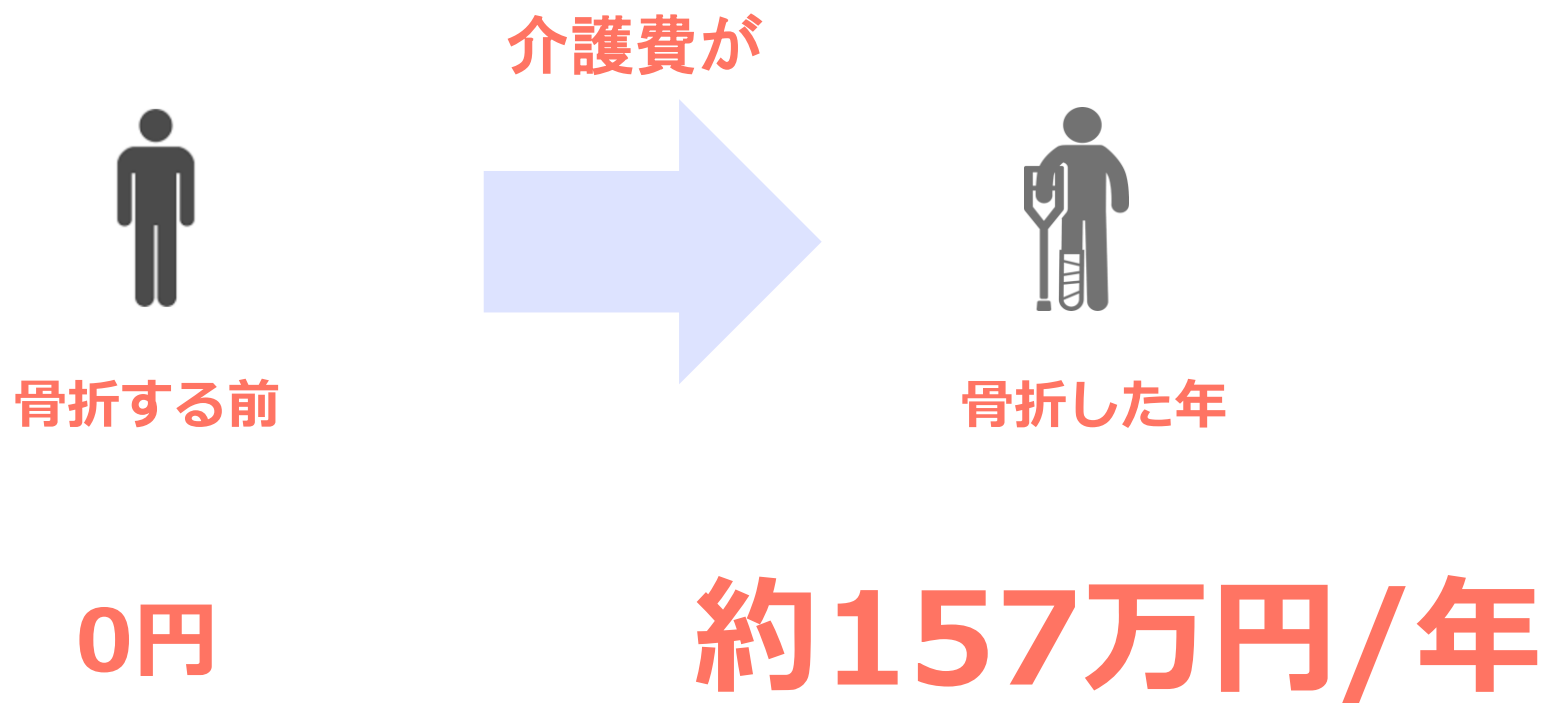


約431万円/年



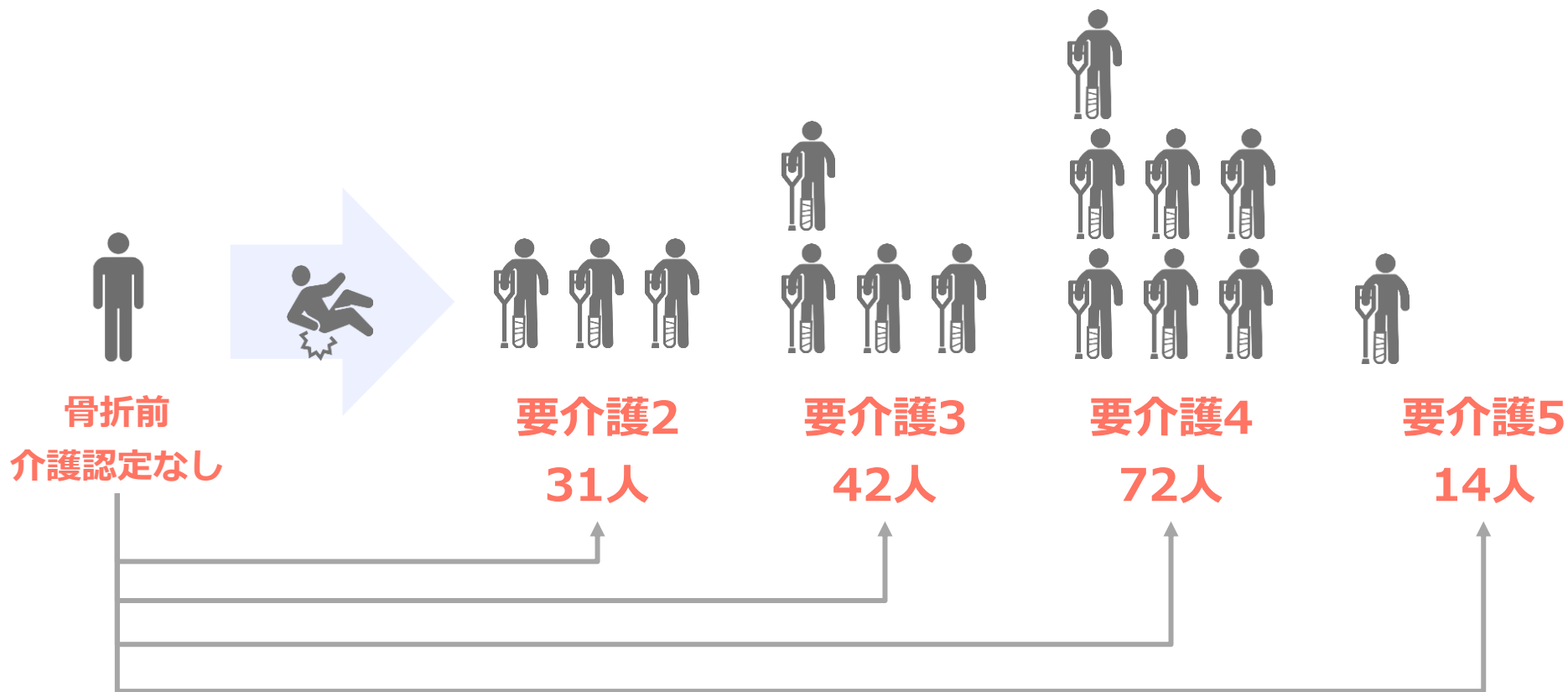
出典：小樽市「骨粗しょう症二次骨折予防事業報告書」p9

大腿骨骨折後、要介護2以上の認定を受けた人に 1年間で約157万円/人の介護費が発生した



出典：小樽市「骨粗しょう症二次骨折予防事業報告書」p8
集計対象は、骨折の前月に介護認定がない者

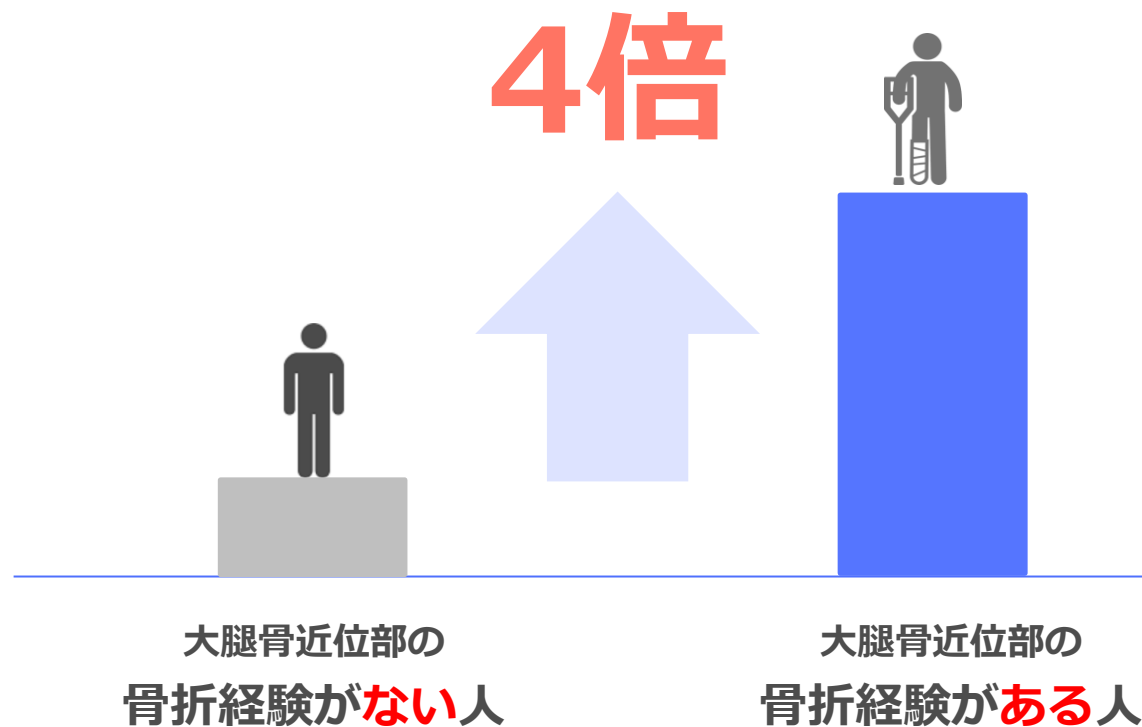
大腿骨骨折の前月に介護認定を受けていないが、 骨折後に要介護2～5の認定を受けている



出典：小樽市「骨粗しょう症二次骨折予防事業報告書」p8

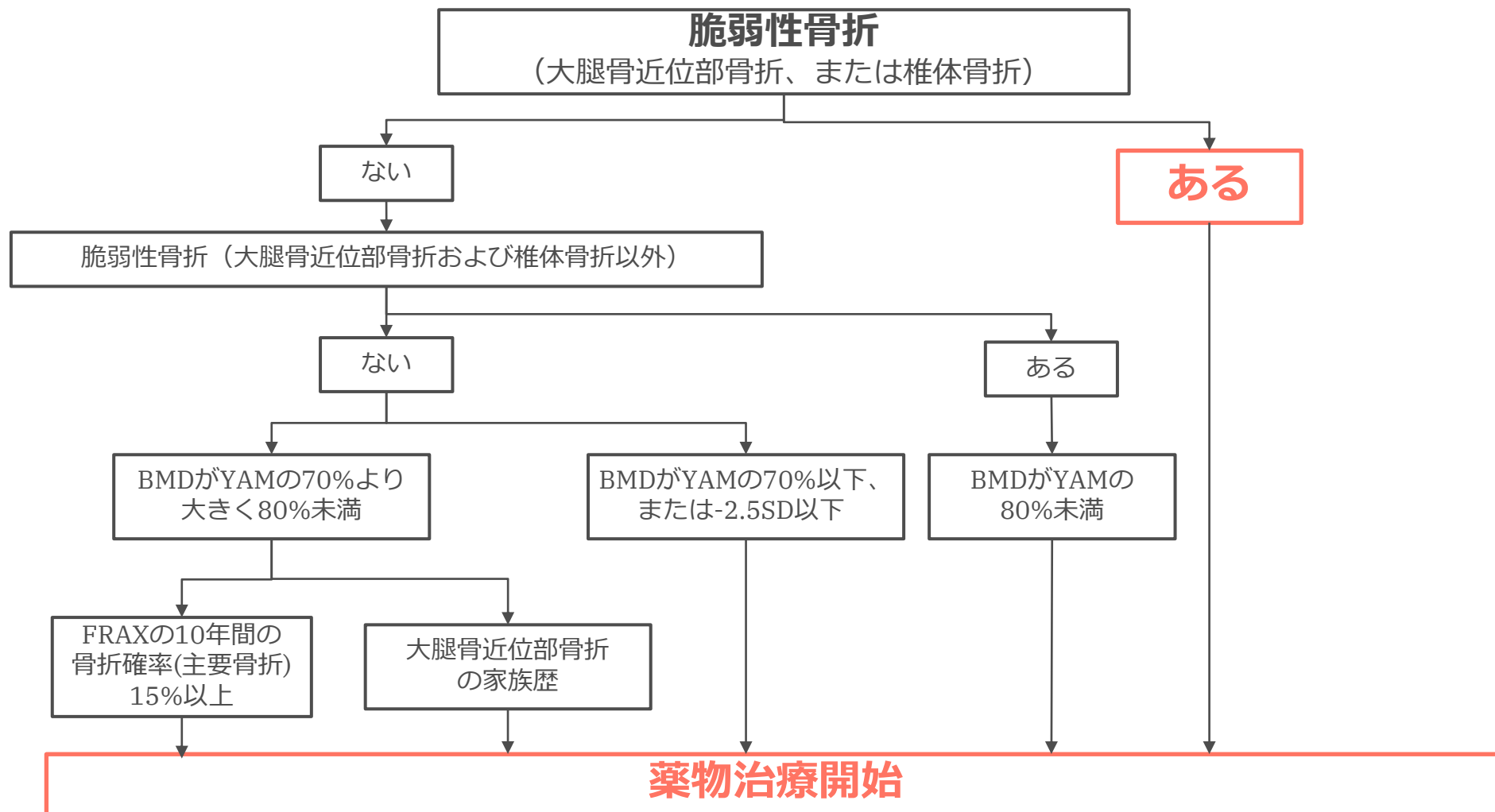
集計対象は、骨折の前月に介護認定がない者

大腿骨近位部を骨折した人が
大腿骨近位部骨折を繰り返すリスク



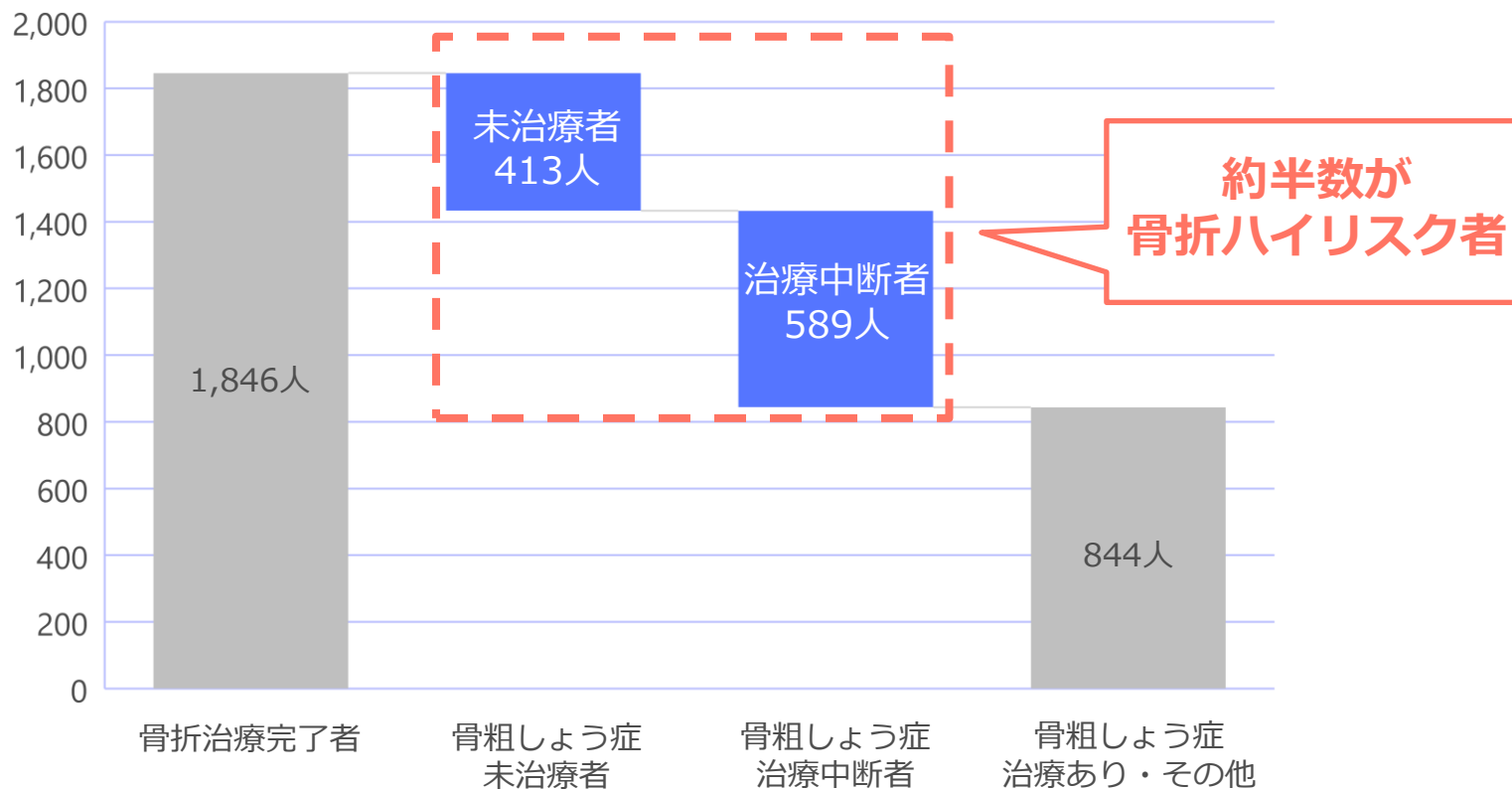
出典：骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015年版

一度でも脆弱性骨折（骨粗しょう症性の骨折）をしている人は、骨粗しょう症の治療が推奨されている



しかし、適切に治療されていない人は多い

骨折治療完了者に占める骨粗しょう症未治療者・治療中断者の人数（小樽市）



出典：小樽市「骨粗しょう症二次骨折予防事業報告書」p17

事業コンセプトは「二次骨折予防」

Before



After : 疾患啓発後

対象：
骨粗しょう症性の骨折歴があり、
①骨粗しょう症の検査・診断・治療歴がない対象者
②骨粗しょう症の治療中断者



医療機関への受診勧奨により骨粗しょう症の検査・治療を促し、
二次骨折を予防する（ハイリスク未治療者・治療中断者）

自治体・Amgen・キャンサーズキャンの三者で連携協定を締結し、事業に取り組む

自治体名	対象者	ステータス
大阪府大阪市	国保加入者	完了・報告書公表
大阪府大阪市	国保加入者 後期高齢者医療制度加入者	現在進行中
北海道小樽市	国保加入者 後期高齢者医療制度加入者	完了・報告書公表
北海道小樽市	国保加入者 後期高齢者医療制度加入者	現在進行中
千葉県佐倉市	国保加入者	完了・報告書公表
北海道恵庭市	国保加入者 後期高齢者医療制度加入者	現在進行中

公表済みの報告書

大阪府大阪市：<https://www.city.osaka.lg.jp/kenko/page/0000570308.html>

北海道小樽市：<https://www.city.otaru.lg.jp/docs/2021102200035/>

千葉県佐倉市：<https://www.city.sakura.lg.jp/soshiki/kenkohokenka/299/16126.html>

対象者の「骨粗しょう症に対する認識」

- 骨折治療が完了したので、これ以上骨に関する治療は必要ないと思っている
- 骨粗しょう症自体は知っているが、自分にはまだ関係のない疾患であると思っている

課題

罹患していると思っていない人、骨粗しょう症の治療の必要性を認識していない人を
受診へ促すこと

解決策

骨折歴と骨粗しょう症を関連づけた、自治体からの重要な通知が届いた
と認識してもらう

事例紹介 北海道小樽市

対象者のグループ分け

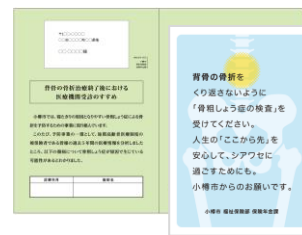
事業対象者
526人

保健指導あり群： 136人
後期の南部圏域対象者

保健指導なし群： 390人
国保対象者、
後期の南部圏域以外の対象者

疾患啓発の実施

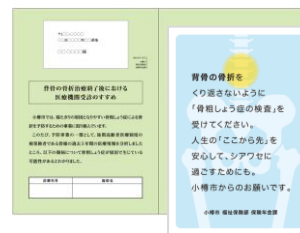
2021年10月29日
勸奨通知の送付



2021年11月30日～12月22日
保健指導の実施（電話・訪問）



実施人数：92人
*電話不通・訪問不在や新型コロナウイルス感染症まん延による訪問自粛のため
44人は実施できず

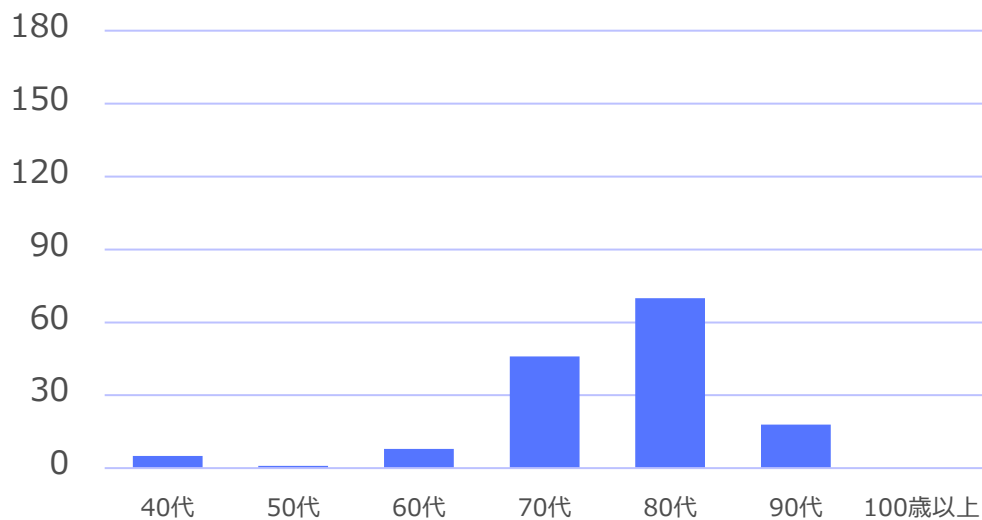


実施なし

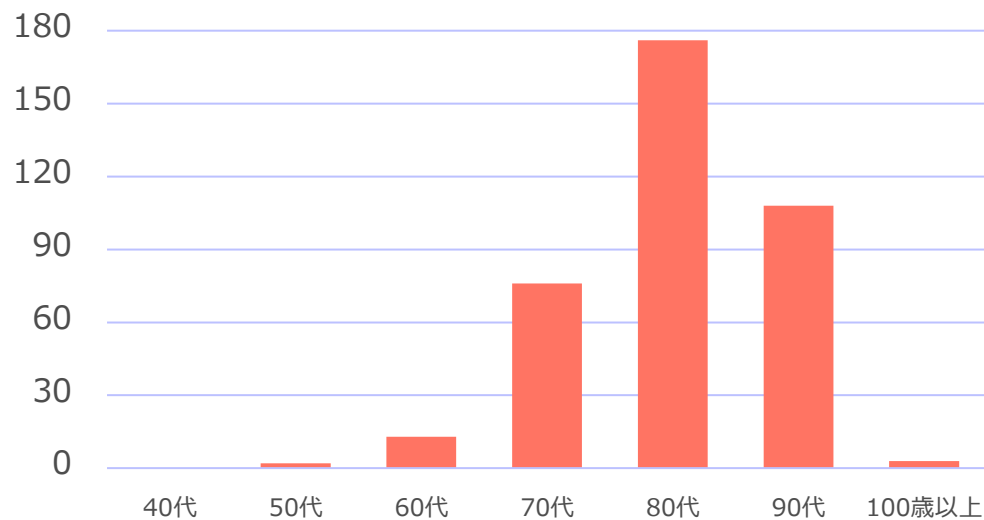
出典：小樽市「骨粗しょう症二次骨折予防事業報告書」p21

北海道小樽市 事業対象者の分布

男性(148人)



女性(378人)



出典：小樽市「骨粗しょう症二次骨折予防事業報告書」p19-20

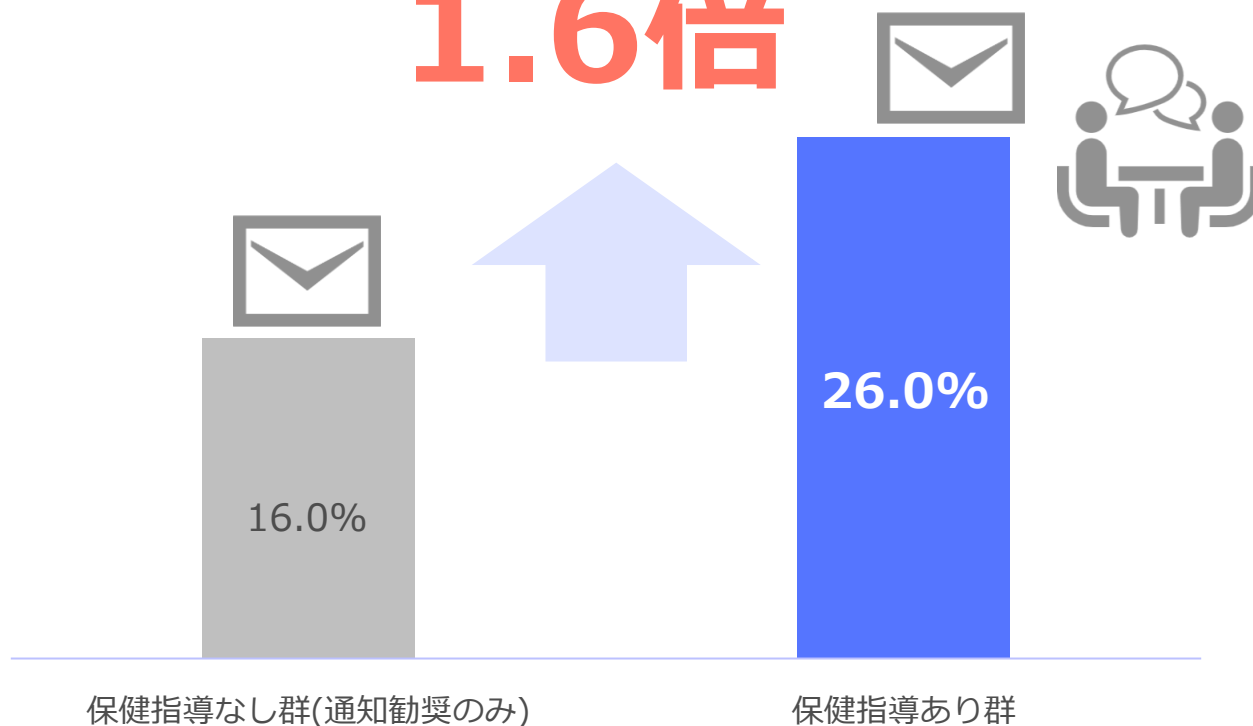
勧奨通知発送後6か月間で

19.6%の対象者が受診
(97人/496人)



勸奨通知送付後、
保健指導あり群は
保健指導なし群よりも受診率が

1.6倍



出典：小樽市「骨粗しょう症二次骨折予防事業報告書」p32

保健指導あり群は後期高齢者医療保険の加入者のうち南部圏域に在住の者を対象とし、比較群（保健指導なし群）はそれ以外の圏域に在住かつ後期高齢者医療保険に加入している本事業対象者

- **高齢者の骨折は医療費増加や要介護者の増加を招く要因になる**
- **骨折経験があると骨折を繰り返すリスクが高まるものの、骨折後に適切な診断・治療を受けていない人は半数にも上る**
- **骨折ハイリスク者へ個別勧奨をすることで、骨粗しょう症の医療機関受診を促すことができた**
- **「高齢者の保健事業と介護予防等の一体的な実施」の中で実施を検討している自治体もあり、骨折対策を高齢者の保健事業として位置付けることは今後必要と考えられる**